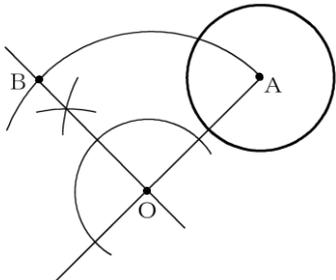


| 問題番号 配点 | 正 答 例 | 採点のポイント |
|--|--|---|
| <p>1</p> <p>[問 9]</p> <p>配点 6 点</p> |  | <p>○点Oを通り、直線OAに垂直な直線を引き、線分OAを半径とする円との交点Bが正確に示されている。</p> |
| <p>2</p> <p>[問 2]</p> <p>配点 7 点</p> | <p>X, Yをそれぞれ a, b, c を用いた式で表すと、</p> $X = 100a + 10b + c$ $Y = 100c + 10b + a$ <p>となる。</p> $Z = X + Y$ $= (100a + 10b + c) + (100c + 10b + a)$ $= 101a + 20b + 101c$ $W = (a + b + c) + (c + b + a)$ $= 2a + 2b + 2c$ <p>よって、</p> $Z - W = (101a + 20b + 101c) - (2a + 2b + 2c)$ $= 99a + 18b + 99c$ $= 9(11a + 2b + 11c)$ <p>$11a + 2b + 11c$ は整数であるから、$9(11a + 2b + 11c)$ は9の倍数である。したがって、$Z - W$の値は9の倍数になる。</p> | <p>○X, Yを、それぞれ a, b, c を用いた式で適切に表している。</p> <p>○$Z - W$の値が9の倍数になることについて、推論の過程が的確に示されている。</p> |
| <p>4</p> <p>[問 2]</p> <p>①</p> <p>配点 7 点</p> | <p>$\triangle A Q D$と$\triangle R S C$において、 四角形ABCDは正方形だから、 $A D \parallel B R$ 平行線の錯角は等しいから、 $\angle D A Q = \angle C R S \dots\dots\dots (1)$ 対頂角は等しいから、 $\angle A Q D = \angle R Q B \dots\dots\dots (2)$ $B D \parallel C S$より、平行線の同位角は等しいから、 $\angle R Q B = \angle R S C \dots\dots\dots (3)$ (2), (3)より、 $\angle A Q D = \angle R S C \dots\dots\dots (4)$ (1), (4)より、2組の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle A Q D \sim \triangle R S C$</p> | <p>○正しいと認められる事柄について、根拠を明確にして記述し、仮定から結論を導く推論の過程が的確に示されている。</p> |

各学校において、採点のポイントを踏まえて『部分点の基準』を作成し、『部分点の基準ごとの点数』を定めること。

なお、受検者の実態等に応じて、次の例のように詳細な基準を定めることができる。

- ・「○○について××が書かれている。」のように、具体的な内容を加えること。
- ・「○○と△△が書かれている。(3点)」「○○が書かれている。(2点)」「△△が書かれている。(1点)」のように、段階を設け、段階ごとの点数を設定すること。
- ・「誤字が一つ以上ある。(1点減点)」のように、部分点の基準を加えること。